

參考資料

参考1:「日本の強みと弱み」「日本の機会と脅威」

日本の強みと弱み

[日本の強み]

我が国は、世界有数の資産を保有する経済大国であり、治安がよく、暮らしやすい豊かな社会を形成している。また、経済、製品・サービス、国際協力、文化等が主な要因となって、「世界に良い影響」を与えた国として世界に認知されている。

【ヒト】	<ul style="list-style-type: none"> ● 平均寿命:世界1位 (World Health Organization/2009) ● 21世紀の国別・分野別ノーベル賞受賞者数ランキング:世界3位 (文部科学統計要覧/2012)
【経済】	<ul style="list-style-type: none"> ● GDP:世界3位の経済大国 (World Economic Outlook ほか/2012) ● 国富(国全体の資産 - 国全体の負債)世界2位 (各国政府統計局/2011) ● 海外投資収益:世界2位 (世界銀行/2011) ● 対外純資産額:世界1位 (CEIC データをもとに SMBC にて計算/2011) ● 失業率 4.35%:先進国でも低い失業率 (総務省・労働力調査/2012)
【安全】	<ul style="list-style-type: none"> ● 最も安全な国・人口 10 万人あたりの殺人件数:世界3位 (国際連合薬物犯罪事務所/2011) ● 幸福度調査・「安全」分野:世界1位 (OECD 調査/2013)
【文化】	<ul style="list-style-type: none"> ● 「世界に良い影響」を与えた国:世界1位 (英 BBC 調査/2012) ● 日本食、日本語、ポップカルチャー、音楽、文学等の世界への発信力

[日本の弱み]

少子化、高齢化により人口、生産年齢人口が減少していることに加え、女性や外国人の社会参加が進まず、画一性が高い社会になっている。他の先進国と比較し、企業活動を阻害する要因が多く、イノベーション創出が進まず、国際競争力が低下傾向にある。

【ヒト】	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口:1億 2,800 万人(2010 年) 1 億 200 万人(2045 年) (国立社会保障・人口問題研究所、人口推計/2012) ● 世界一の高齢化率 22.8% (2010 年)もさらに加速し、2045 年には 37.7%と予測 ● 外国人居住率 1.1% (2011 年):先進国最低レベル ● 大学競争力ランキング 100 位以内に2校、200 位以内に5校のみ ● 家族・子ども向け公的支出・対 GDP 比 0.7% (2007 年):先進国最低レベル
【経済】	<ul style="list-style-type: none"> ● WEF・競争力総合ランク:世界 10 位(2012 年)、IT 競争力:世界 21 位(2013 年) ● WEF・イノベーション競争力ランキング(2012-13):世界5位 ● 企業活動のしやすさランキング・世界 24 位(世界銀行/2013) ● 政府債務残高・対 GDP 比率:約 200% (世界で最も逼迫した財政状況) ● 女性労働力率 63%、女性管理職比率 8.1%:先進国の中でも最低レベル
【安全】	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー自給率 7%、食料自給率(カロリー) 40%:先進国で最低レベル ● 日米同盟に依存した安全保障体制
【文化】	<ul style="list-style-type: none"> ● 民族の単一性(99.9%以上)、言語の単一性

日本にとっての機会と脅威

[日本にとっての機会]

日本独特の技術や文化に対する海外からの関心は高く、製品やサービスなどの海外への輸出拡大が期待できる。また、世界先端の成熟・高齢化社会であり、その中で形成する社会モデルは、世界、特に新興国の成長に大きく貢献できる可能性があるとともに、豊富な水資源、日本の海域に豊富にあるとされるレアアースや多様な生物資源を活用できる可能性も高い。国内市場においては、女性・高齢者・外国人の労働参加による経済成長の大きな伸びしろが残っている。

【ヒト】	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界に先駆けて訪れる超高齢化社会から、新しい社会モデル・技術等の創出が期待 ● 高齢者の積極的な労働参加、外国籍高度人材の活用推進の発展性が大きい
【経済】	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性の労働参加で、GDP 最大 15% 増加が期待 (Goldman Sachs “Womenomics 3.0”) ● 1,400 兆円の個人金融資産と巨大シニア・マーケット (50 歳以上が 80% を保有) ● 世界第 6 位の広さの排他的経済水域。豊富な水産資源、エネルギー・鉱物資源 ● 他の先進国と比較して輸出依存度が低い (17.4%、経済産業省/2010) が、将来の輸出拡大の可能性も見込める ● 世界的に中間層が増え、日本のインフラ・システムや製品の輸出が期待される ● 世界的に産業構造の速い転換により、新しいビジネスチャンスが広がっていく
【安全】	<ul style="list-style-type: none"> ● 領土問題を契機とする国防意識の高まり ● 「G ゼロ後の世界⁴⁴」における「日本のソフトパワー」の役割への期待
【文化】	<ul style="list-style-type: none"> ● 長い歴史と文化が蓄積され、どの日本人にも備わっている (= ミトコンドリア) ● 日本人の気質、作品、生活といった価値・魅力に対する海外の関心が高い

[日本を取り巻く脅威]

急激なグローバル化の中、日本独特の文化や風土が失われていくとともに、水資源を安易に海外に売り渡してしまうなど、日本人が自ら意識していないところで、国際的な不利益を被ることが懸念される。また、世界のパワーバランスが変化中、新興国の台頭により、相対的プレゼンスが低下していくとともに、世界的な経済競争・共存、資源競争・共存から取り残される危険性もある。

【ヒト】	<ul style="list-style-type: none"> ● 新興国における人口増加・経済成長・教育水準の高まり ● 少子・高齢化による人口減少・労働人口減少
【経済】	<ul style="list-style-type: none"> ● 労働人口減少に伴う経済停滞・減退 ● 国際競争力のさらなる低下 (IT、イノベーション、企業活動のしやすさ、教育) ● 国家財政・社会保障制度の破綻、社会資本の維持管理・更新投資の増大 ● これらの結果としての、世界の中での日本のプレゼンスの喪失
【安全】	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー・食料の海外依存が高まる一方、輸入量が確保できない危険性 (日本のプレゼンス低下、地球規模課題、新興国の台頭・人口増加等に伴う) ● 世界的に資源需給 (食料・水・エネルギー) が逼迫していくことが懸念 ● アジア太平洋地域における安全保障・パワーバランスの変化
【文化】	<ul style="list-style-type: none"> ● 成熟社会故に、社会に対する当事者意識の欠落とモラル低下 ● 日本人が自ら意識していないところで、日本らしさ (日本文化・日本語など) が失われることの危険性

⁴⁴ 西側や米国の指導力が相対的に低下し、新興国では自国内問題が優先される為、国際政治が「指導者不在」になりつつある状況を表現した国際政治アナリストのイアン・ブレマー氏の言葉。

参考2:2045年の家庭像(各委員がイメージする将来像)



多くの家庭で夫婦、子ども、夫婦の親世代が近くに住居を構えている。地方出身でも **TV 会議システムを活用**した仕組みが、**家族の「近しさ」**を感じさせてくれる。テレワークの普及により、21世紀初頭と比べると移動に要する時間が激減。このため、家族で過ごす時間が増え、かつゆとりがある。アジア圏内が一つの経済共同体となっており、進学、就職先は日本を超えた選択が行われている。企業や学校の中に**日本人以外の人**が占める割合が**25%**を超えており、子どもたちがこれらの人と接しながら学び、生活することが当たり前。また、東南アジアからのメイドの存在は家事負担を軽減させてくれている。逆に、子どもたちがメイドのアルバイトを日本国外でするのも普通に。このため、日常的に日本語以外の言語が飛び交い、**子どもたちは数か国語を理解**している。

(Indigo Blue 代表取締役社長 柴田 励司)

<伊東 治雄(仮名)> 東京都世田谷区出身 43歳

私立中高一貫校を経て私立大学に入学するが、1年で中退。**国際保健活動**でエチオピアへ移住。現地でデンマーク人研修生と知り合い、子ども(男)を儲けて結婚。二年後にエチオピア人孤児(女)を養子に迎える。妻が国際機関の仕事に就き、四人家族でジュネーブへ。子ども(女)を儲けて、グルジア人(男)孤児を養子に迎える。妻の研究テーマであるミトコンドリアのエネルギー変換の栄養学が長崎大学熱帯医学研究所に評価され、赴任する。六人家族で、日本へ転住。インターネット経由でプロデュースしていたアフリカ民族系のミュージシャンが次々とヨーロッパから世界へとヒット。**ヨーロッパでフランチャイズ化したカレーうどん店**が進展し、インターネット経由でエチオピアに日本の農業技術を移転する小麦栽培プロジェクトを始める。



<倉本 亜矢子(仮名)> 北海道十勝出身 41歳

帯広の公立高校から東京大学へ入学。東京大学と北京大学の学生会議の代表を務め、TPPに参加した日本の「強い農業」を訴え、総合商社に入社。農産物分野に配属される。オーストラリア育ちの日本人弁護士と知り合い、2年後に結婚。結婚1年後に子ども(男)を儲けるが、**夫も一緒に育児休暇**を取る。会社の託児所などを利用して仕事に復帰。海外出張が多いが、夫が子どもの面倒を見てくれる。学生時代から築いていた中国の人脈を活かして、農産物部門で次々と大きな取引を実現。子ども(女)を儲けるが、弁護士事務所のパートナーであった夫が在宅勤務するようになり、子どもたちの面倒を見る。異例なスピード出世で、**39歳で会社の最年少の取締役執行役員**となる。様々な国際会議に出席するようになり経済界で活躍する日本人女性のロールモデルとして知名度が広まる。社長候補と言われる中、故郷の北海道知事選に出馬するために会社を退社し、周囲を驚かし初当選。

(日本国際交流センター 理事長 渋澤 健)

家族がグローバルに拡散している家庭

父は日本企業の海外事業開発で現在アフリカのルワンダに駐在している。以前中国、ブラジルに家族で駐在した経験から、現在中学 2 年生になる長男は自身の意思で米国の寄宿舎付きの学校で学んでいる。小学 4 年生の長女は小学校に入る前に海外で育ったため、ほぼ**バイリンガル**であり、兄のように海外で学びたいと思っている。小学 1 年生の次男は、英語は片言であるが、クラスメイトの中には外国人生徒もいるため、友人とは英語も交えて遊ぶこともある。母親は海外での駐在経験を活かし、地域のボランティア活動で外国人移民の母親に日本語を教えたり、生活全般をサポートする活動に熱心である。

関東北部の日本企業のエレクトロニクス工場のお膝元であり、従業員の半数は移民という街でだが、地方自治体自ら移民のサポートには熱心であり、日本人コミュニティと融合したモデル都市として注目を浴びている。祖母は近隣のコミュニティーホームに暮らしているが、ここにおける従業員の半数以上が移民によってサポートされている。

年に 2 度、家族は 2 週間の休暇を日本以外でとるほか、ほぼ**毎日テレビ電話で会話をしており、家族は個々が独立していながらにして結束が固い。**

(ラッセル・レイノルズ・アソシエイツ・ジャパン・インク
マネージング・ディレクター/日本代表 安田 結子)



両親共働きで、留学生を招いている家庭

(父:会社員兼介護士 43 歳、母:会社員 40 歳、娘 14 歳)

中学 2 年生の娘は、現在オーストラリアに交換留学でホームステイをしている。互いの家の子どもを交換留学させることができる制度で、費用が削減され、ホームステイ先は仲介業者を通じて連絡を取り合ってから選択できる安心感、留学後も家族含め良いお付き合いが続けられる利点から**留学経験を持つ学生は約 70 パーセント**にもものぼっている。留学生受入れが増えていることから、学校が留学生に日本の観光地や文化等を教える機会を作っており、先日は浅草近くの公立中学校の生徒数名で浅草寺周辺を歴史や文化を教えながら伝える課外授業を実施した。教えることで日本の文化をより理解し、今後の日本のあり方を意識できる若者が増えることが評判になっている。父親は IT 関連会社に勤めているが、政府が呼びかけた“**介護協力企業**”に属しており、週 2 回老人ホームで介護をしている。介護協力企業に属することはめずらしいことではなく、積極的に介護問題に取り組むことが企業イメージの UP につながり、政府からの支援も手厚くなることで参加企業が増加している。母親は働いていて忙しい為、中々買い物に行く時間をとるのが難しい。しかし、指定時間までにメール一本で、近くのスーパーが家まで食材を配達してくれる。メニューを考える時間もないときは、金額の制限内で作れる食材が届く。近所のスーパーなので配送料はかからないため、利用者が多い。

(ベネフィット・ワン 取締役副社長 鈴木 雅子)

お母さんが海外にて単身赴任、

お父さんが都会でサラリーマンの家庭(子ども2人)

お母さんはアフリカで新幹線プロジェクトの売り込みのため、現地へ長期出張。お父さんは大手電機メーカーにてエンジニアとして研究所勤め。家には東南アジアから来ているメイド兼ベビーシッターが常駐して子どもの世話から掃除までを安価でやってくれている。夏の休暇時には、メイド兼ベビーシッターを連れて、ドバイでお母さんと合流した後、スペインで過ごす休暇を楽しみにしている。



お母さんはスウェーデン人、

お父さんはニセコでスノーボードインストラクター(子ども3人)

北海道ニセコに北欧文化を持ち込んでニセコをオーストラリア、ニュージーランド人が中心のインターナショナルリゾートから世界のあらゆる国で知られる No.1 スノーリゾートにすることを夢見ている。

お母さんは現在オーストラリア人が経営するコンドミニアムおよびリゾート施設の中堅経営幹部。年に一度、家族そろって世界中のスノーリゾートを旅し、理想のスノーリゾート像を描きながらもニセコが世界トップの雪質を持っていることを実感。子どもは将来、北欧、西欧、米国に向けて留学。スノーボード、スキー競技を極めながらもスノーリゾート経営を学んでいく。

(ベンチャーリパブリック 取締役社長 柴田 啓)

都会でお父さんがサラリーマンの家庭(子ども2人)

中学2年の姉は地元公立中学に通いながらも、約半分の授業を英語で受講し、英会話は日常会話には困らない程度のレベルまで達している。中高一貫で進学予定の高校では、一年間の海外留学が義務付けられており、将来は海外での就職を夢見ている。

一家が住む地域には近年海外からの移住者が増加しており、近所でパートタイムで働く母親も日常的に英語を使用するようになっている。会社員の父親・小学生の妹とともに、休日は地域のコミュニティでイベントに参加することも多い。

海外で働くお父さんのサラリーマン家庭(子ども1人)

母親も日本国内で働いていて、拠点は別になるが共働きの家庭である。職業は幼少のころ、アメリカに住んでいたこともあり、通訳として国際会議などで活躍をしている。中学1年の長女はインターナショナルスクールに通い、父親同様、将来海外で働くことを夢見ている。また、スペイン語の学習に励んでいる。

(LIXIL グループ 取締役代表執行役社長兼 CEO 藤森 義明)

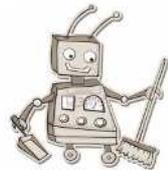
30年後の家庭像(多様性があり、多数の選択肢のある社会)

1. 官僚の父とNPOで働く母のいる家庭(祖母1人、子ども2人)

父は中央省庁で働く官僚だが、3年の地方勤務を経験し、また、民間企業への出向も経験したことがある。世の中では官民の人財交流が進んでおり、広い視野で国の政策作りをサポートできる人財や、国の制度や政治に関心の高いビジネスパーソンが増えており、全体の約3割を占める女性の活躍は目覚ましい。

母は働く女性を支援するNPOに勤務しており、行政の手の届かない細かいサービスを提供すべく、各家庭の悩み相談や児童保育のサービスを提供している。母は二年程前に心臓病で入院して以降無理はせず、週三回の在宅勤務となっている。

最近では、一般家庭用の家事ロボットが充実しており、種類やグレードにもよるが、家事の負担は相当軽減されている為、共働き家庭は増加傾向にある。我が家は奮発してハイグレードロボットを購入。賢いロボットが窓拭きからスケジュール管理までやってくれるので非常に助かっている。



住居は二世帯用マンションに住んでおり、祖母は隣の部屋に住み、食事はいつも一緒に取っている。予防介護サービスや電子カルテを使った自宅診療が充実しており、病院通いは殆どしていない。あらゆる医療データは電子化され、万が一、祖母に体調異変があっても、警備会社からすぐ親族に連絡が入るので安心出来る。また、祖母は趣味で海外の大学のウェブ講座を受講しており、来年マスターを取得する予定である。

大学3年生の兄は文化人類学を専攻しており、多様な文化の理解・吸収に努めている。企業のグローバル化が急速に進み、資本関係も国をまたいで複雑なケースが殆どであるため、かつての新卒一括採用という制度は形骸化し、大半の企業の採用活動は通年となっている。兄は卒業の時期はまだ決めておらず、半年間は世界を旅するつもりである。

2. 地方で両親が農業に従事する家庭(祖父母2人、子ども3人)

父は地方で大手の農業生産法人に勤めている。週3日の勤務で経営のノウハウや栽培のノウハウを吸収し、それ以外の平日は自宅の2~7階にある最新鋭の高級トマト農園の経営に携わっている。母や祖父母は父のトマト栽培事業を手伝っており、農産物のネット販売や海外への輸出、インターネットを活用した地元農家の栽培指導等を行っている。TPP導入により、近隣諸国との野菜の貿易数量は増加しており、海外客先からのインターネット注文が増加している。

中学2年生の姉は、自分の通う中学校が提携しているアジアの国々の学校の授業を複数選択しており、他国の友人とはSNSで連絡を取り合っている。通話は同時通訳され、入力は瞬時に各国の言葉へ翻訳されるため、どの国の子供とも簡単にコミュニケーションをとることが出来る。

本来小学2年生であった弟は学校の飛び級制度により2年進級し、4年生の授業を受けている。最近の学校は、個人のプレゼン能力、交渉力を高める授業が充実しているが、弟は第三外国語での演劇の授業が苦手の様である。

(三井物産 取締役専務執行役員 雑賀 大介)

前提となるコンセプト

1. IT の進化により様々な壁がなくなる、様々な課題が解決可能に
自動翻訳技術、デバイスの進化、通信高速化による海外との壁の消失
利便性向上による年齢差によるデジタルデバイドの壁の消失
オフィスと在宅の壁の消失
2. DNA 分析の進化によるさらなる長寿社会 3 世代、伝承、ワークシェアリング
3. 環境、エネルギー問題が危機的に 共感、奉仕、地域、がキーワードへ
4. 超スペシャリストとジェネラルとの乖離
トリプルワーク、ワークシェアリング、何歳でも働く

家庭像

日本の生産性が上がるとすれば、個人力、IT の進化に機敏に対応した中流層も増える
と想定。

30 年後の一般的な生産性の高い中流インテリジェンス層の家庭をイメージ。

(中流層がこの程度のポテンシャルを持てなければ厳しい)

房総の庭付き戸建に 3 世代住居、広大な敷地で 自家製菜園 で
60%は自給し、数十頭の保護犬を預かる NPO 団体を運営。留学生
生としてアフリカ、ヨーロッパから数名派遣され運営をサポート。



【祖父 80 歳】

大企業に勤務していたそれまでのビジネス経験を活かし、日本、インドネシア、ナイジェ
リア、トルコ、ポーランドの各 NPO 団体の理事としてサポート。壁に貼り付けているモニタ
ーによる バーチャル会議を毎月のように実施。年に 1 度は日本に集まる。自動翻訳技
術、通信速度、バーチャル技術、デバイスの進化の飛躍的な向上により議論も活発。 自
家菜園、自家発電など半自給生活に挑戦。

【祖母 70 歳】

企業勤務から専業主婦となり 30 年前に創った動物保護の NPO ネットワークが現在世界
30 カ国に展開され、その相談役として、年に 1 回バーチャル世界総会に参加。現在は
房総の家で保護犬の運営を留学生と共に運営している。

【父 40 歳】

高校時代に開発したアプリをインドネシアのベンチャーに売却し小金を稼いだ後、中小
ベンチャーに入社しながら 在宅勤務でプログラマーとして活躍しながら、アプリ開発の数
社の顧問も受ける。週末は地元で 地域便利屋として、人を輸送したり、食料品を届けたり
観光ツアーを実施。

【母 40 歳】

雑貨勤務の経験を活かし、現在は クリエイティブディレクターとしてパリのデザイナーとバ
ングラディッシュの若手チームと 5 人で EC サイトを運営。通常は祖母と保護犬運営。

【孫 10 歳】

感性を持つ人工知能開発ゲームに夢中。世界中の 1000 人と競い合いながらチームとし
てゲーム上の人工知能の完成を目指している。進級が他の人より早く、平日も余裕で保
護犬運営に留学生と共に携わると同時に父の便利屋も手伝う。

(リクルートホールディングス 取締役社長 峰岸 真澄)

将来の家庭像

- 父親は、以前は高校教師だったが、ファンドレイジングの募集に応募して資金をもらい、日本の高校生を海外の大学に入学させるためのネット上の塾を開いている。仲間であるコンテンツの制作者は世界中にあり、会議はTVで行うため日本にいる必要はない。
- 母親は、ワインと野菜のソムリエの資格を持ち、最近世界的に注目されている日本のワインと質の高い野菜を世界各国の高級レストラン・スーパーに営業する仕事に従事しており、特に日本の夏は、季節が反対になる南半球の国をターゲットしたほうが有利であるため、家族全員で日本の春から秋の半年間はニュージーランドに住んでいる。
- 子どもは3人。下の二人の小学生の子どもたちは「ホームスタディ」システムを利用し、半年間はニュージーランドの小学校に編入し、週に一度テレビ会議システムで、東京の先生と面談し、宿題や質疑応答をしている。ニュージーランドでも冬、日本に帰るとまた冬という環境のため、息子はスキーのアルペンレースチームに、娘はモーグルチームに入り、かなりの腕前である。二人とも夢はオリンピック選手。もちろん、苦労せずにバイリンガルである。
- 中学3年生の長男は、パリのカルナリースクールの入学を目指して、冬の半年は日本で、残りの半年は一人でパリのボーディングスクールに入り、アルバイトをしながらフランス語と食の勉強を始めた。費用はネット上のファンドレイジングサイトで募集し、必要額をゲットした。将来は日本とヨーロッパのフュージョンを、料理とワインで表現できるレストランを開きたいと思っている。
- 両親は今の仕事を後人に譲ったのちは、ニュージーランドのクイーンズタウンの山のふもとにワイナリーと小さなレストランを開こうと話しており、海外投資委員会に土地取得の申請を出したところだ。



将来の家庭像

- 農業の法人化が完全に自由化された年に起業した夫は、今は東北の山間の牧草地と畑をレンタルし、乳製品と珍果物を生産する小規模な法人の社長だ。太陽光とバイオ技術を使った二毛作を実現し、牛乳の生産性は世界トップレベルを達成。安定して質の高い乳製品は、ネットだけで販売している。今は珍果物の安定した取引先の開拓に忙しい。
- 妻は以前は計測ソフトのプログラマーだったが、牛の状態を測定し、最適のタイミングで乳を自動で搾れるように牛を誘導するシステムを構築した後は、夫の会社に副社長として入社し、今は珍果物の収穫量と味を最適化するためのシステム開発に没頭している。
- 子どもは3人。3人とも小学生のときは地元だったが、中学生の時に交換留学生制度を利用して、それぞれタイ、ナイジェリア、カナダへと1年間留学し、その影響で、高校からはそれぞれの国の学校と地元の学校とを半年ずつ行ったり来たりしながら過ごした。これも、日本の柔軟な教育制度のたまものだ。おかげで3人とも苦労せずにバイリンガルとなった。
- 長男は、未だに低い生産性のタイの農業に注目し、タイの専門学校でプログラミングを勉強しながら、すでにタイの農業法人でパートの仕事を請け負っている。将来はタイで農業法人を企業して、母親の開発したシステムを改善して導入しようと考えている。
- 長女は、20歳にして双子の母。毎日肝っ玉母さん風のナニーに子どもを預けて、父親と一緒に珍果物の営業を始めた。最近は、夫のいるナイジェリアからの注文が増えており、頼もしい限りだ。長男と同様、将来はナイジェリアの農業の生産性向上に貢献したいと思っている。

ナニー：乳母。住み込みで子供の面倒をみる、育児や教育の専門知識を持った女性。

(日産自動車 執行役員 星野 朝子)

参考3:「30年後の日本を考えるPT」活動履歴

会合名	開催日	テーマ	講師
第1回会合	2012年6月27日 7月4日	PT活動計画(案)について 「30年後の日本を考える」フリーディスカッション	
第2回会合	7月30日	長谷川代表幹事との意見交換	
第3回会合	8月30日	30年後の経済・産業のあり方と人財ポートフォリオ	
第1回正副委員長会議	9月11日	全体像と今後のPTの進め方について	
第4回会合	9月27日	「30年後の魅力と競争力のある国家・個人」	大阪大学招聘教授・筑波大学客員教授 / 中央大学客員教授 / 元・文部科学副大臣・参議院議員:鈴木 寛 氏
第5回会合	10月2日	30年後の魅力と競争力のある個人 30年後を見据えた安全保障の課題	防衛副大臣 / 衆議院議員:渡辺 周 氏
第6回会合	11月1日	地域経済の将来像	静岡銀行 代表取締役 取締役頭取:中西 勝則 氏
第7回会合	11月13日	未知の30年後に向かって今すべきこと	ウシオ電機 取締役会長 / 経済同友会 特別顧問(終身幹事):牛尾 治朗 氏
第8回会合	12月4日	世界から見た日本の将来	国際コラムニスト / ハーバード大学ケネディスクール 公共政策大学院 フェロー:加藤 嘉一 氏
第9回会合	12月18日	環境変化に合わせた雇用と日本社会のあり方	東京大学大学院経済学研究科 教授:柳川 範之 氏
第2回正副委員長会議	12月21日	全体設計と今後の進め方について	
第10回会合	2013年1月16日	教育:30年後に求められる競争力ある人材をどう育成するか	
第11回会合	1月30日	地域の自立と活性化	
第12回会合	2月5日	中間層とその将来	
第13回会合	2月13日	30年後の豊かな日本社会像	
第14回会合	3月5日	世界に通用する日本らしさ	
第15回会合	3月18日	30年後の雇用・ライフスタイルに関する問題提起 提言取りまとめに向けた論点整理	(PT内雇用・ライフスタイル検討チームからの問題提起)
第3回正副委員長会議	4月23日	「提言骨子(案)」について	
第16回会合	4月26日	「提言骨子(案)」について	
第17回会合	5月21日	「提言(案)」について	
第18回会合	7月3日	「提言(案)」について	